

2011年 7月 12日

親愛なる仏道の兄弟、姉妹達へ

過去一年間、あのように困難な時期、貴方がた皆と共に働いて来たことは大きな苦しみであり、又同時に喜びでもありました。私達の伝統と僧伽のために努力して来た事により、私達は皆偉大な成長を遂げ得たと感じます。しかしその為、私は精力の全てを使い果たし、今私は、シアトルで間もなく完成する禅堂、宿泊施設のある修行道場での仕事に専念しなければなりません。栄道老師に完全引退を勧め、以後禅堂の内外を問わず、一切教鞭は取らないという契約を纏めるに至った、私達の功績は禅スタデイ ソサイエティを大きく好転させました。それ故に、私はこの組織、又私自身の仏門との約束を放棄したという想いなしに、この団体から引退する事が出来ます。

それに加えて、この前の理事会議において明白になった事ですが、もはや私の存在は多数の理事会員との和合を保つ事が出来ないようです。私はZSSが深く治癒し、成長し、前弟子達が再び禅堂に戻る事が可となる機会をつくり、さらに新しい弟子を招く所迄の真の可能性を育てるには、少なくともある程度の栄道老師との断絶を堂内で行なわなければならないと思っています。さらに栄道老師は彼自身の場所を堂内に持つてはならないと思うのですが、引退後六ヶ月経った現在、未だに彼の部屋はそのまま残っており私はこれに問題を感じます。あのように道徳違反の長い歴史的記録を持つ人物に、立ち入り禁止区域のZSS堂内に、通常の入出りを許可する事は、理事会自身大きな信託の危険を犯していると思います。現時点で、私達の場所で、栄道老師がいかに小さくとも性的違反を仕出かしたとしたら、これは私達にとって決定的に悲惨な結果をもたらします。彼の7月5日の私達への手紙を見れば明瞭な事ですが、彼は彼自身の犯した害悪の酷さに対して自覚が全く無いどころか、ニューヨーク禅堂での坐禅、達磨クラスの指導を今もって要求する始末ですから、彼を立ち入り禁止区域と決められた場所に入出りさせる事は絶対に間違いであると思います。カメラ付きの電子鍵を設置する案は私も完全に理解し、賛成します。こうする事で我々が僧伽を使用していない時のみ彼の出入りを許可することが出来るのですが、もしこれが必要な用心なのであるならば、私は彼の完全立ち入り禁止を決定する方がより安全な策だと思っています。

私のはっきりさせておきたい事は、彼の犯罪を罰するつもりはなく、むしろ彼と愛法さんに対し気前良く引退恩典を支払う事も支持しています。しかし両者の合意を得る事は難しいであろうと案じてもいます。とにかく、貴方のこの交渉もやがて終了し、皆が納得出来る協定に落ち着くであろうと信じています。

最後に纏めて、あのように献身的で決心の固い人びとと共に働いて来た事は私の生涯にとって、幸運な事でした。私達の間で交された最近の悪感情や私の退場に関する問題も早急に消えてくれる事を祈ります。私は年2回の接心には参加する予定であり、8月の集会にも参加します。もし8月の集会で新しい条例を作り上げる相談のため召集がある場合は私もボランティアとして参加します。ZSSは会員制の組織であり少なくとも半数以上の理事は会員より選出されており、私はZSSを支持する決意でありますから。DBZとNYZにおいて真の仏法が育ち、繁栄する事を望みます。

深い合掌を捧げて、

げんじょう マリネロ